

普遍教育に学ぶ。

千葉大学では、「時代にふさわしい高い専門性と総合的判断力を持ち、国際化・情報化の進んだ人類社会の一員として創造的に行動する能力をもった人材を育成する」という教育目標を掲げ、カリキュラムを編成しています。その教育の根幹となるのが普遍教育科目です。

普遍教育科目の特徴や履修に際してのアドバイスなどを、北村彰英・普遍教育センター長にお伺いしました。

大学には多くの「学問」があることを知つてもらいたい。

——普遍教育が始まった経緯を教えてください。

高校までの教育は、英語や数学などの科目教育です。しかし大学で学ぶのは、科目という切り口とは全然違った「学問」です。例えば環境という切り口は、多くの知識を必要とするため、科目という切り口ではアプローチできませんよね。それが「学問」です。大学に入りたての1年生にとって今までの勉強は、「大学に合格する」ということが先決だったと思います。学部を選ぶ際にも、そこまで深い知識や情報がなかったのではないか。そんな皆さんの中には、早く専門知識を身につけたいと思っている人もいるでしょう。しかしそひ皆さんには、大学には多くの「学問」があることを知つてもらいたい。

まずは多様な学間に触れることで視野を広げ、そこで得た知見を基にじっくりといつも思っています。そしてそれこそが、普遍教育の根幹をなす「教養コア科目」の特徴なのです。

「教養コア科目」は、千葉大学の全教員を6つの学問分野に分け、各分野で活躍している教員に研究内容を1年生にも理解できるように講義してもらいます。「論理と哲学」「発達」「芸術と文化」「社会と歴史」「くらしと環境」「いのちと科学」、どの分野も今までの科目教育の枠を超えた興味

——約1300もある普遍教育科目、何を履修したらよいのか戸惑う学生もいるのではないかと思いますが、履修に際してのアドバイスはありますか？

B. 西千葉キャンパスのメインストリート。春は桜並木に、新緑の季節は緑のトンネルに姿を変えます。ドラマ「獵奇的な彼女」の舞台になりました。



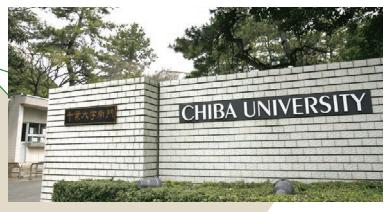
A. 普遍教育の核となる総合校舎A号館。普遍教育センターをはじめ、学生支援課・就職支援課など学生のサポート窓口があります。



C. 湾曲したファサードと白い柱が印象的な「けやき会館」。大ホール・会議室等を備え、式典や各種イベントに利用されています。



D. JR西千葉駅から徒歩0分の南門。授業の開始時間が近づくと、たくさんの学生がここを通って教室に向かいます。



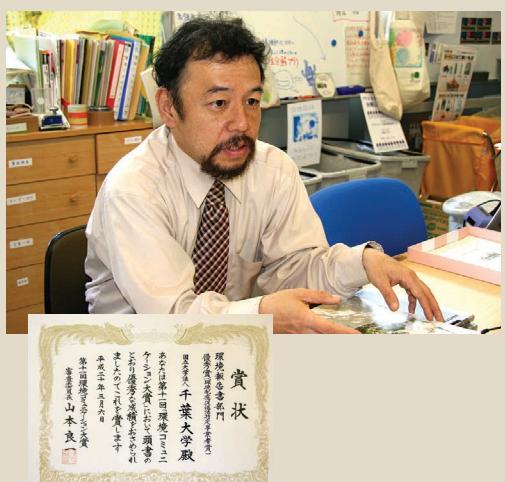
社会の一員として備えるべき一般的な素養・知見と総合的判断力を養うことを目的に開設。総合大学としての特色を最大限に生かし、「英語科目」「初修外国語科目」「情報リテラシー科目」「スポーツ・健康科目」、そして6カテゴリーに分けられた「教養コア科目」、その応用版としての「教養展開科目」で構成されている。

普遍教育とは？



環境マネジメント システム実習 I

法経学部教授 倉阪秀史



「千葉大学環境報告書2007」環境省・環境コミュニケーション大賞
「優秀賞」受賞、他数々の賞を受賞している。

この授業の大きな特徴は、環境マネジメントに必要な専門知識を学ぶだけでなく、「仕事の進め方」を授業として教えることにある。例えば企画書の書き方やスケジュール管理、交渉術など、社会人一年生が学ぶこと全く同じことを大学1・2年生で学び、プロジェクトの企画運営を通じて実践することができる。よって、環境に関心のある学生だけではなく、プロジェクトマネジメントに興味のある学生も多く履修している。

この授業は3段階制になっている。最終段階ではインターランシップ経験が組み込まれる。千葉県庁や千葉市などへの派遣経験があるが、今まで気がつかなかつたことを指摘してもらった、即戦力になるなど、非常に高い評価を受けている。それは、ISOの要求事項を熟知していることはもとより、大学という大きな組織を理解し、自分たちで恵を出しながらマネジメントするという経験があるからに他ならない。

大学が環境 ISO14001を取得することは今 の時代珍しいことではない。しかし、学生が主体となつて環境マネジメントシステムを構築し、環境 ISO事務局の実務そのものを単位とする大学は、千葉大をおいて他にはない。「千葉大の環境」という授業は、インターネットシップや地域活動といった内容を取り入れる傾向にある普遍教育の流れを受け、プロジェクト

起業論入門 起業Q&A

千葉大OBからのメッセージ

融合科学研究中心教授 落合勇一



ビルゲイツの例を挙げて、ベンチャーの素晴らしさを説明する、千葉大OB TRYWARPの虎岩さん。平成19年春、西千葉キャンパスにて試行された起業論の講義風景。

ライフデザイン

教育学部准教授
下永田修

コミュニケーションを磨きながら考える

生活の大部分を占めていた受験を終えた学生に、大学で学ぶ意味や大学生活の送り方について改めて考える機会を提供することで、大学でのキャリアデザインのイメージをつけてもらいたい、という意図から開講された。



水中ホッケー日本代表監督をつとめながら、フィンスイミングというニュースポーツにもアクティブに取り組んでいる。

く寄せられた。大学という大組織にいると、隣の人が誰だか分からぬまま授業が終わってしまうということが多々あるが、この授業を通じて隣の人にも声をかけられるようになり、人間関係が広がっていくことを期待したい。サークルなどで興味が同じ人と知り合うことはできる。しかし社会に出れば、自分の好きな人とばかりやり取りができるとは限らない。初対面の人とのコミュニケーション方法を学び、実践していれば、知らない人たちの中に入つても勇気を持って会話ができるはず。この授業でコミュニケーションをとる能力をつけ、より多くのつながりを創ることで、自分の考えを深め、将来設計の一助としてもらいたい。

この授業は3段階制になっている。最終段階ではインターーンシップ経験が組み込まれる。千葉県庁や千葉市などの派遣経験があるが、今まで気がつかなかつたことを指摘してもらつた、即戦力になるなど、非常に高い評価を受けている。それは、ISOの要求事項を熟知していることはもとより、大学という大きな組織を理解し、自分たちで知恵を出しながらマネジメントするという経験があるからに他ならない。

この授業の特徴は、教員が教壇に立つのではなく、卒業生で起業に成功した若い社長が授業を行うことにある。自分に近い存在の卒業生が、自分の言葉で成功談や失敗談を語ることで、1年生がこれからの大學生生活に自信を持ち、自分も何かできるかもしけないと思ってもらうことが狙い。卒業生企業家たちはすべて実体験に基づいて話をするので説明がとてもうまいし、聞いている学生の目の輝きも違う。実際に起業

をしなくとも、大学に来たら何をやつたらいのか、自己主性について考える機会を与え、支援し、何か行動を起こしたいという学生には場所を提供するのが、この授業の役目である。

またこの授業は、自分と同じような仲間を増やしたい、ネットワークを広げたい、新しいベンチャーが生まれたら一緒に頑張りたい、大学組織の中で新しいビジネスチャンスがあるかもしれない、と考えている卒業生起業家たちにとつても良い機会になると思う。我々大学サイドとしても、大学組織において教職員ではなかなかできないことを卒業生がビジネスとして解決してくれることは嬉しいことであると共に、教えられることも多々ある。大学、卒業生、教職員、学生を巡るよい循環の場になるのではないかと思っている。

普遍教育で何を学び、それがどう今の学生生活に活かされているか？ 学生の皆さんに聞いてみました！



私が印象的だった普遍教育は、木曜2限の『スポーツとの出逢い』という授業です。この授業では、毎回オムニバス形式で、スポーツ現場に関わっている様々な講師の方が来て、スポーツを多方面から考

ではなく、普遍教育ならではの切り口からスポーツを考え、人との出逢いはもちろんですが、新しい価値観や世界、職業との出逢いが数多くありました。私は、大学とは『出会いの場』であると考えています。自分の主体的な行動次第で、世界はどこまでも広がり、その可能性は無限大だと思います。現在受講している、『ライフデザイン』、『地域ボランティアを考える』、『実務家による金融基礎知識』なども、毎回違う講師の方が授業をしてくださり、たくさんの出会いを私にもたらしてくれます。これらの授業を通じて、大学生だからこそできることを、大学のブランドや人材、情報網を利用して、積極的に行っていきたいと思うようになりました。

教育学部スポーツ科学課程3年 林 沙織



私の思い出に残っている普遍教育は『言語コミュニケーション』です。この授業では、英語を母国語とする先生を軸に「コミュニケーション」という観点から英語を用いて生徒同士でディスカッションの実践をしました。他の外国语語

の授業ではコミュニケーションツールとして実践的に学んだことがなかったので、日常に英語が入り込む感覚を学べたことがとても印象に残っています。また、英語の表現方法や仕組みを学ぶことで、日本語の仕組みも改めて考える機会をもつことができました。現在私が所属している環境健康フィールド科学研究室（柏の葉キャンパス）には様々な研究をしている方がいるので、日本語・英語を問わず、普段から積極的にコミュニケーションをとり、自分自身が成長出来るように心がけています。コミュニケーションを理論的かつ実践的に学ぶことができる普遍教育は、ぜひ大学生のうちに積極的に取り組むべきだと思います。

園芸学部生物生産科学科4年 山本裕菜



A portrait of a young man with dark hair, wearing a white lab coat over a light-colored shirt. He is smiling slightly and looking towards the camera. The background is a plain, light-colored wall.



ad altiora semper

つねに、より深きものをめざして

文学部 史学科教授 保坂高殿

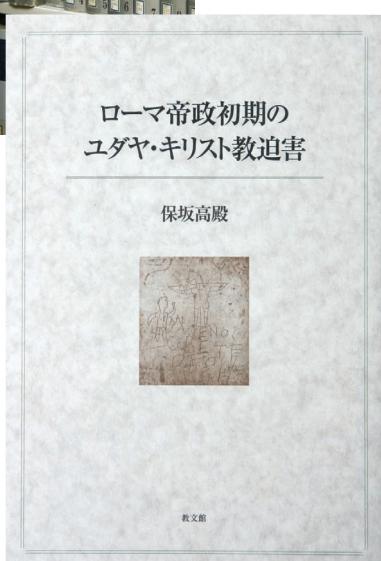
中学の頃、私はよく秋葉原に真空管を初めとする電子部品を買い出しに行つては徹夜でラジオやアンプの制作に取り組み、将来は電子工学の分野で研究職に就きたいという淡い期待を抱いていました。しかし高校の途中で関心が機械から人間へ、自然科学发展から人文科学へと変化し、その後、絆余曲折を経て最終的に今の専門である西洋古典文献学に落ち着いたのは、ギリシア・ラテン文芸とキリスト教に彩られた西洋文化を、その源泉にまで遡つて見極めてみたいという思いからでした。量子力学が描画する物理的世界とは異なり人間界には飛躍がなく、諸事象は連続しています。近現代は中世の、中世は古代の集大成であるよう

うに、過去完了の領域で生み出された文化は過

去を通過して現在の中に連綿と生き続けています。

文献学は諸写本の伝承過程や信憑性など、文献の諸属性を中心的に歴史研究であり、史料批判の領域で歴史学と重なり合います。近代の実証的歴史学も文献学から派生したと言つても過言ではなく、その祖と言われるJ·ランケも文献学に造詣の深い教養人でした。それに反し文献学的史学者が描く歴史像には多くの場合、外から恣意的に持ち込まれた枠組み（特定の歴史観や社会学的なモデル）が含まれています。しかし枠組みは素材の内部から発見せねばならず、外からの借物である場合は新たな素材

マ帝政初期のユダヤ・キリスト教迫害は古代地中海世界の2大勢力、ローマ帝国とキリスト教の衝突の場面に注目して帝国側の弾圧論理の析出を試みた文献学的な作品です。細心の注意を払ったのは、考察に必要な史料が帝国側のものだけでは不十分であるゆえに教会側史料も使わざるを得なかつたため、教会側史料に見られる特有のバイアスを可能な限り除去しなければならなかつた点です。古今東西、支配される側は支配する側の意図を歪曲して解釈し、その野蛮さ、傲慢さ、邪悪さを過度に強調するのを常とします。紙面の都合上詳細は語れませんが、除去作業を経て明かにされたことの一つには、從来言われてきた帝国主導の「迫害」は実は存在せず、3世紀中葉には帝国が民衆の暴行に晒された教会を保護しようとした事例さえ確認される程度です。東アジア近現代史研究に喻えて言えば、拙著は安重根ではなく伊藤博文に代表される日本政府の視点からの研究書ということになります。もちろん同一対象について相対立する複数の視点から同時に考察することは歴史学では重要、というよりは不可欠ですが、しかし「迫害史」研究では教会側の視点からの考察は既に十分に行われてきたため、拙著では敢えて帝国側に視座を設定し、キリスト教中心史観および史資料分析法に大幅な修正を施したわけです。従来の研究は帝国の国策が「いじめられる」側にあつた古代教会の脳裏に刻み込んだ残像をそのまますべて歴史の実像と解釈してきましたが、それらの残像は実像と虚像の混合体であります。虚像部分を除去して帝国統治の実像を構築しなければならないと考えた次第です。相異なる視座に立つて描かれた複数の歴史像の和解と統一は果たして可能なのか、本書はこの点の問題提起ともなるでしょう。



で検証しなければなりません。今日の歴史学は19世紀初頭、ドイツ文献学の原点に今一度立ち戻らねばならぬでしょう。文献学はそうした安易に余所から借用してきた未検証で仮説的な歴史観あるいは一部の研究から覆し兼ねないという意味で、「より深き」歴史の深層 altiora を明らかにする可能性を秘めています。 altiora とはラテン語形容詞（完了形）altus の比較級中性複数形で、観測者から見て鉛直線上「より遠く離れたもの」「すなわち「より高きもの」ばかりではなく、「より深きもの」をも表します。

TOPICS

日本の伝統美を活かした千葉大オリジナルアカデミックガウン
平成19年度 大学院修了式・学位記授与式でお目見え。

この3月に行われた千葉大学大学院修了式・学位授与式では、厳謹な雰囲気の中、「博士」の学位を授与された修了生267名と登壇者40名が、本学で独自に開発・制作したアカデミックガウンを初めて着用し、修了生の記憶に残る授与式となりました。スクールカラーの暗紅色と、裏地に光沢のあるシルバーを配したこのガウンは、日本固有の絹の帯生地を伝統的な博多織で仕上げ、洋服でも着物でもコーディネイトしやすいシンプルで斬新なデザインが特徴です。前副学長の宮崎清理事（デザインを専攻）が発案したデザインに基づいて、国際的デザイナーの今井千恵氏に最終的なデザインをまとめていただき、今年初めてのお披露目となりました。



CHIBADAI People

中村澄子さん 附属図書館司書（情報部情報サービス課）



千葉大学の図書館では、今まで新入生向けに実施していたライブラリーツアーに加え、今年から「Podcasting」をスタートさせます。これにより、図書館情報をインターネットで見ることができるだけでなく、図書館で貸し出すiPodを使ってセルフガイドツアーが可能になります。他にも、電子ジャーナルや授業資料ナビゲーターなど、皆さんの大学生活をサポートする機能が図書館にはたくさんあります。それだけではなく、本館新館1Fのスペースを広げ、衛星TVやDVD・ビデオ視聴ができるようになりました。外にはリフレッシュコーナーもあります。ぜひ多くの皆さんに、気軽に図書館に足を運んでもらいたいと思います。ただし、飲食などの利用マナーや返却期限はきちんと守ってくださいね！